

令和5年度 学 校 評 価 (総括評価表)

池田高等学校三好校

○スクールポリシー

【育成をめざす資質・能力に関する方針】

- (1) 地域産業の担い手, リーダーとして必要な力を育成します。
- (2) 感受性が豊かで, 自他と自然を大切に考え, 行動できる力を育成します。
- (3) 課題解決に向け, 周りの人と協力し, 粘り強く取り組む力を育成します。
- (4) 自ら学び, 主体的に挑戦する力を育成します。
- (5) 自らの特性を知り, 将来設計に生かすキャリアプランニング能力を育成します。

【教育課程に関する方針】

- (1) 地域の農業, 林業の活性化を目指した学習を実践します。
- (2) 地域・企業・大学等と専門性を生かした連携活動を実践します。
- (3) 地域の農産物等を利用した6次産業化商品の開発に取り組みます。
- (4) 体験的な学習を重視し, 知識と技術の確実な定着を図ります。
- (5) 「わかる授業」「振り返り学習」を通し, 「確かな学力」の定着を図ります。
- (6) 学校生活では, 社会人としての必要な礼儀やマナーなどを重視します。

重点課題	重点目標 (全校レベル)	下位組織レベル	評価指標	活動計画	評 価			学校関係者 評価	次年度への課題と 今後の改善方策	
					活動計画の実施状況	評価指標の達成度	総合評価			
学力の向上	(1) 学習意欲を育み、「確かな学力」を育成する (教務課、進路指導課、農場長)	(1) 「わかる授業」を実践し、学習意欲を高める。 (教務課)	①-1 生徒の授業満足度 80%以上 ①-2 ICT 活用した授業 1人3回以上 ①-3 電子黒板の授業での活用 授業での活用率 50%以上 ②職員研修の実施 -1 研究授業 1回以上 -2 教員間の授業参観 2時間以上	①各教科で ICT 等を活用して「わかる」授業を実践する。 ②研究授業や授業参観を各自の授業改善に生かす。	①電子黒板やタブレットを使用した授業を積極的に展開した。 ②研究授業を6月・1月の計3回実施し授業後、研究協議会を開催した。授業参観週間を6月・11月に各2週間ずつ設定した。	①-1 生徒の授業満足度調査 87.4% (満足・おおむね満足) ①-2 ICT を活用した授業はすべての科目において1人3回以上実施した。 ①-3 授業での活用率は、普通教科では50%以上であったが、専門教科では、実習などで50%以下であった。 ②-1 研究授業 3回 ②-2 教員間の授業参観 2時間以上	B	(1) 評価 B (所見) ICT 環境の整備に伴い、それを活用した授業作りが進んだ。ところが、生徒1人1台端末の故障により、十分に活用できなかった。一方、生徒の学力や意欲については、依然個人差が大きい。個別指導や教員間の連携を密にしての対策で効果が出ている面も見られる。先生方の指導力向上の意識と意欲は高い。	○端末の故障により ICT を活用した授業が十分ではなかったことが、個別指導や教職員間の連携により学習意欲の向上が図られたことや学校農業クラブ活動に参加する生徒をサポートしたことにより一定の成果を得られたことに感謝します。	GIGA スクール構想に基づき、ICT を使った授業を一層推進するとともに、教員及び生徒の ICT 活用能力を向上させる取組を行い、魅力ある授業作りに努めたい。 授業力向上に向け、研究授業や職員研修会だけに頼ることなく、普段の中で情報の共有、伝達等が行えるような工夫をしていきたい。
		(2) 「振り返り学習」「家庭学習」「マナトレ」「漢字テスト」等により、基礎学力を養成する。 (教務課、進路指導課)	①「振り返り学習」を「行っている」科目の割合 100% ②1日の平均学習時間 2時間以上 ③マナトレ (国・数) の実施 -1 実施回数 20回以上 -2 7級以上合格率 65%以上 ④校内漢字テストの実施 年間8回 (1・2年対象) ⑤基礎力診断・課題テストの実施 年間3回	①「振り返り学習」時間を設け、授業の理解を高める。 ②考査前1週間を家庭学習強化期間として、各自の学習を促す。 ③マナトレを活用し、国・数の学び直しを行う。 ④漢字テストを実施し、基礎学力向上を目指す。 ⑤基礎力診断テストや課題テストにより、学力の実態把握を行う。	①授業の最初または最後に前時及び本時の振り返りをプリントやノートにまとめた。 ②期末考査3日前から1週間程度家庭学習時間調査を2回実施。3学期は3月実施予定。 ③各ホームルームを教員2、3名で担当し、国語15分間、数学25分間の設定で継続的に学び直しを行えた。 ④5月から2月まで月1回、テキストから範囲を決めて実施。 ⑤各種テストから生徒の実態を把握することができた。	①「振り返り学習」を「行っている」科目の割合 100% ②考査前・考査期間中の平均学習時間 2.0時間 (2回の平均) ③マナトレ (国・数) -1 実施回数 27回 -2 7級合格率 国語81% 数67% ④年間9回実施 平均80点以上53% (8回まで) ⑤基礎力診断テスト1回 課題テスト2回	B	依然個人差が大きい。個別指導や教員間の連携を密にしての対策で効果が出ている面も見られる。先生方の指導力向上の意識と意欲は高い。	○卒業後就職を選ぶ生徒が多いことから、振り返り学習による基礎学力の向上は重要と考えられますので引き続きより詳しくお願いします。	家庭学習が定着している生徒はもちろん、そうでない生徒が学習時間を確保できるように促していきたい。基礎学力の向上を図るため方法・手段に変化をつけながら粘り強く指導を続けていきたい。
		(3) 個別指導を充実させ、個々の能力を伸ばさせる。 (教務課)	①生徒面談回数 1人3回以上 ②生徒の成績状況調査 年間2回以上	①面談週間や家庭訪問週間を設け、家庭と連携して学習に取り組む態度を養う。 ②放課後や長期休業に個別に指導を行う。	①1学期に家庭訪問週間、各学期当初に面談週間を実施した。 ②放課後や長期休業中に必要に応じて三者面談を実施した。	①生徒面談回数 1人3回以上 ②生徒の成績状況調査 年間3回	B	主体的に学校農業クラブ活動に取り組む生徒をサポートし全国大会出場が果たせたことは、他の生徒への範となり、今後の指導	○多方面にわたる学力向上の取組で成果が上がっていることを高く評価します。引き続きより詳しくお願いします。	基礎学力は、まだまだ十分ではないが、個別指導の効果は大きく、教科担任・ホームルーム担任とさらに連携をとることにより効果的な指導を進めていきたい。
		(4) 自ら学び、主体的に挑戦する力を	①各種発表、各種競技での成果 県予選3種目以上入賞	①学校農業クラブ活動の各種発表や技術競技に意欲を持って参加させ	①意見・プロジェクトにおいて、県最優秀となり四国大会へ出場。	①学校農業クラブでの成果 県予選会入賞3種				地域の課題を把握し、その解決を目指す

		育成する。 (農場長)	②校外外での資格取得者 延べ人数年間50人以上	る。 ②各種資格取得を奨励する。	内、意見発表は全国大会に出場。 ②専門科目を中心に、授業で活用し将来に活かせる資格取得を推進した。	四国大会入賞2種 ②資格取得延べ人数 137名	A	にもつながる。	す研究を充実させるとともに、各種発表へとつなげていく。 引き続き、目標を定め、資格・検定試験の受験を推奨する。	
重点課題	重点目標(全校レベル)	下位組織レベル	評価指標	活動計画	評価			学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
					活動計画の実施状況	評価指標の達成度	総合評価			
生活力の育成	(1) 社会的な生活習慣を身に付け、健康に生活を送る力を育成する。 (生徒指導課、保健厚生課)	(1) 礼儀やマナーを重視し、安全に生活を送る力を育成する(生徒指導課)	①生徒の三好校スタンダードの実践度 90% ②二輪車交通加害事故 0 ③いじめにつながるトラブル等の早期発見早期解決 推進	①三好校スタンダードを意識させ、あいさつ・遅刻・身だしなみの3点に重点を置き、指導を徹底する。 ②車両点検・実技指導・登下校指導・交通安全指導により、二輪車運転事故を防止する。 ③いじめのアンケート調査を年間3回行い、気になる事例に組織的に対応する。	①無断での遅刻はないが、遅刻に対する意識の低さが見える生徒がいる。身だしなみへの意識は向上している。 ②-1 車両点検は春・秋の2回は専門業者による点検、毎月の学校安全の日には交通委員による点検を実施した。 ②-2 二輪車の違反や事故はなかった。 ③いじめ調査の結果は大きな問題もなく、担任による面談や生活相談などで早期対応により、問題発生前に解決している。	①-1 年間遅刻割合 1% ①-2 身だしなみ再指導者 3% ②-1 二輪車整備点検 10回 ②-2 二輪車の交通被害 無し ③アンケート調査 3回実施	B	(1) 評価(B) (所見) 無断遅刻もなく、身だしなみを整えて生活を送り、通学や学校生活では概ね安全に過ごすことができている。 健康結果を生活に生かす意識を向上させようと努めたが行動に結びつかなかったところもあった。	○卒業後就職を選ぶ生徒が多いことから、礼儀や健康管理は重要ですので引き続きよろしくお願ひします。 ○三好校スタンダードの実践は素晴らしい取組であり、安全・安心した学校作りにつながっています。	①保護者との連携を密にし、登下校の生徒の時間や服装にも注視していく。 ②車両点検は今後も確実にやっていく。また、自転車だけでなく、バイクでの実技講習を計画していく。 ③年度当初の新入生に問題が起りやすいので、早期発見できるように面談や生活相談ができる体制を充実させる。
		(2) 健康に生活を送る力を育成する(保健厚生課)	①二次検診受診率 心電図 100% 尿、肥満 50%以上	①健康診断結果通知と個別の保健指導を実施し、個々の健康管理を支援し、二次検診受診率を向上させる。	①健康診断の結果通知を終了後すぐと3者面談時の2回実施した。個別の保健指導は、肥満・尿の二次検診対象者に実施した。担任を通して、長期休暇などでの受診を呼びかけた。	①二次検診受診率 心電図 (該当者なし) 肥満傾向の生徒と面談などは実施したが、受診には至らなかった。(対象生徒11名) 担任を通して、受診を数回促したが、受診には至らなかった。(対象生徒1名)	B	(2) 評価(B) (所見) スクールカウンセラーは面談を契機に、早期に生徒の困難を把握し、次回のカウンセリングへと繋げた。	○スクールカウンセラーを生かした支援や人間関係を育てる活動を引き続きよろしくお願ひします。 ○生徒達が生き生きと学校生活を送っている様子がうかがえます。さらに、魅力的な部活動のあり方についての対策をお願ひします。	①健康診断の結果通知を元に個別の保健指導が必要な生徒との面談を実施し、生徒自身が健康状態を把握出来るように支援を行う。また、肥満傾向の生徒には、定期体重測定や保護者への定期的な通知を実施し、受診を促していく。
	(2) 課題解決に向け、周りの人と協力し、粘り強く取り組む力を育成する。 (教育相談課、特別活動課)	(1) 自分の課題や悩みに向き合い、たくましく生きる力を育成する(教育相談課)	①必要な支援の実施や、スクールカウンセラーによるカウンセリングの推進 ②ホームルーム活動(心理教育) 各学年1回	①各種検査の結果や担任による個別面談・生徒観察により、生徒の困難さを把握し、個々のニーズに応じた支援やカウンセリングにつなげる。 ②生徒の心身の健康問題について、予防的なアプローチとして心理教育(心の授業)を行う。	①担任の判断によりカウンセリングが必要と思われる生徒と保護者を、スクールカウンセラーへつなげた。1・2年生を対象に知能検査とハイパーQUを実施し、生徒理解に役立てた。 ②1年生「ストレスと対処法」(6月) 2年生「ネット依存」(7月)	①スクールカウンセラーによる面談(初顔合わせ) 1年生(希望制で9割程度) 2年生(全員) 個別カウンセリング 25件 ②ホームルーム活動 1・2年生で各1回実施	B	(2) 評価(B) (所見) ホームルーム活動や学校行事の満足度は高く、望ましい人間関係が育っている。	○望ましい集団活動や体験的な活動を通して実際の社会で生きて働く社会的な能力を身につけたい。 ①現在生徒会主体の行事運営が実現して	
		(2) 集団のなかで仲間と協力する力を育成する(特別活動課)	①ホームルーム活動満足度 80%以上 ②学校行事の満足度 80%以上 ③部活動加入率 65%以上	①人間関係づくりを進めるホームルーム活動を実施する。 ②生徒会活動としての行事(前日祭等)を、計画から実施まで生徒主体の活動となるように支援する。 ③各部活動の活動内容を工夫し、活動充実感を高めるとともに加入を促進する	①人権学習や人間関係作りのレクリエーション等のホームルーム活動を通して、学年やHR単位での活動を促し、望ましい人間関係を形成する態度を育てることができた。 ②生徒会役員が中心となり、生徒へのアンケート等、生徒の意見をくみ上げる工夫をして実施す	①ホームルーム活動満足度 91% ②学校行事の満足度 82% ③部活動入部率 49%	B			

					ることができた。その中で、学校への所属感や連帯感を深め、協力してより良い学校生活や社会生活を築こうとする自主的、実践的態度を育てることができた。 ③部活動見学週間に新入生全員が複数の部活動を見学した。また部活動紹介で ICT を用いるなど工夫を凝らした紹介を行った。しかし、「魅力的な部活がない」等の理由で新入生の入部率は 51%にとどまった。			部活動の数が少なく入部率は低迷している。	いるため、より一層発展させていきたい。また生徒全体に、よりよい学校生活を築こうとする態度身につけさせたい。 ①入部者の部活動満足度は 78%と比較的高い傾向を示した。しかし、入部率は昨年より 15%ほど低下しているため、各部顧問と連携し、部活動の魅力発信に注力したい。	
	(3) 感受性が豊かで、自他と自然を大切に考え、行動できる力を育成する。 (環境防災課、保健厚生課)	(1) 環境を守り、自他の命を守る力を育成する (環境防災課、保健厚生課)	①-1 地域環境美化活動年間 3 回実施 ①-2 校内美化活動実施率 85%以上 ②地域資源保護活動年間 2 回以上 ②-1 高校生防災士講習参加 3 名以上 1 名以上合格 ②-2 地域防災組織との連携 2 回以上 ③生徒対象 AED 研修 実施 職員研修受講率 100%	①徳島 GX スクール活動を推進し、SDGs への職員・生徒の意識改革と行動変容を促す。 ②生徒に防災士の取得奨励、地域との合同訓練の実施等、地域防災の担い手意識を持った防災リーダーを育成する。 ③災害発生時の生徒・職員の生命・身体の安全確保を目的とした AED 研修を実施する。	①-1 ゴミゼロ美化活動を 30 名以上の生徒が参加して実施。 ①-2 ゴミの分別を啓発し、回収したエコキャップを社会福祉協議会へ納めた。 ②-1 吉野川水防訓練に参加 ②-2 全国緊急地震速報訓練で 2 回、教室での命を守る行動を 1 回実施した。 ②-3 防災士講習会 3 名参加 ③池田消防署による AED、胸骨圧迫等の救急救命についての職員研修を実施した。	①-1 地域環境美化活動 2 回実施 ①-2 校内美化活動を 7 回実施 ①-3 ゴミの分別を清掃時に毎回実施。エコキャップの回収も継続 ②-1 吉野川水防訓練に 4 名参加 ②-2 全国緊急地震速報訓練、教室での命を守る訓練等 3 回実施 ②-3 防災士講習会 3 名参加し、1 名合格 ③ 職員研修 (AED) 職員参加率 95%	B	(3) 評価 (所見) 徳島 GX スクールの計画に基づいた活動を行うことができ、SDGs への意識が高まっている。防災士試験で 1 名が合格し、防災士活動を今後展開する。人権の意義や重要性を理解し、自他を大切にすることが、人権が尊重される社会作りにつながることを学ぶことができた。	○これからは環境に配慮した産業の振興が不可欠ですので、環境教育活動の推進をお願いします。 ○救える命を救う救命球措置に加え、災害を未然に防ぐ労働安全衛生についても検討をお願いします。 ○自他を大切にすると人権教育を引き続きよろしく願います。	SDGs に即した活動を展開し、持続可能な社会の実現のために活動を継続していく。 ③次年度以降も、開催し職員の救命救急における実践力の向上を図りたい。
		(2) 差別を許さず安心できる生活を築く力を育成する。 (人権教育課)	①-1 「学校人権の日」の資料作成 4 回以上 ①-2 人権講演会・映画会などの実施 2 回以上 ②-1 活動的な内容を取り入れた人権ホームルーム活動各学年 2 回以上 ②-2 同和問題についての人権ホームルーム活動 各学年 1 回以上	①「学校人権の日」の取組、内容を充実させ、毎日の生活にある人権問題から差別を見抜く力を養う。 ②生徒の実態に合わせた同和問題学習や人権学習を深め、主体的に考え、問題解決へ行動する力を養う。	①障がい者・ハンセン病による人権問題を扱った講演会、映画会を実施した。 ②グループ学習やロールプレイを行い、当事者となって問題解決に取り組み、グループで話し合うことで考えを深めた。	①-1 「学校人権の日」資料作成 6 回 ①-2 人権講演会・映画会 2 回 ②-1 活動的な内容を取り入れた人権ホームルーム活動 2 回 ②-2 同和問題についての人権ホームルーム活動 各学年 1 回	B		社会にある様々な人権問題を取り上げ、その解決に取り組む態度を養う。加害者にも被害者にもならないために、正しい知識を学び、固定観念を捨て、人権意識を高める。	
重点課題	重点目標 (全校レベル)	下位組織レベル	評価指標	活動計画	評価			学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
					活動計画の実施状況	評価指標の達成度	総合評価			
社会性の醸成	(1) 自らの特性を知り、将来設計に生かすキャリアプランニング能力を育成する。 (進路指導課)	(1) 自己理解を進め、適性・能力を加味して、主体的に進路を考える。	①-1 キャリアパスポートの実施 4 シート 年間 8 回 ①-2 進路希望調査 年間 2 回	① キャリアパスポートを利用した面談の実施や、目標を設定し、結果の振り返りを通して自己理解を深める。また進路希望調査を行うことで、進路に対する意識を高める。	① キャリアパスポートや進路希望調査を活用して、担任や進路課との面談を実施し、個別学習を始めるなど進路指導につなげることができた。	①-1 キャリアパスポート 4 シート 7 回実施 ①-2 進路希望調査 2 回実施	B	(1) 評価 (所見) キャリアパスポートを活用することで自己理解が深まり、進路希望調査をきっかけに目標に向けて勉強を始める生徒もいた。	○進路意識を育み進路実現を図る取り組みを計画的に行っている。引き続きよろしく願います。 ○生徒が自身のキャリアプランニングを意識する働きかけ、アドバ	
		(2) 事業所・進学先・ハローワーク等との連携により最新の進路情報を把握	①進路ガイダンス・講演会の実施 各学年 3 回実施	①上級学校や企業・地元商工会議所やハローワーク等と連携し、各学年に応じた講演会やガイダンスを行うことで、様々な情報を入手し、	①企業ガイダンスなど各学年に応じた内容のガイダンス・講演会を実施することができた。	①進路ガイダンス・講演会 1 年 10 月・12 月・3 月 (予定) 2 年 12 月・1 月・3 月 (予定) 3 年 4 月・6 月・7 月 実施	A		ガイダンスをきっかけに進路について考え、行動する生徒が増えるよう、工夫し	

		握する。		進路選択の幅を広げる。					進路を考 えるう えで進 路ガイ ダンス や学校 ・職 場見学 は効果 的であ った。	イスをお 願いま す。	ながら今 後も実 施し ていき たい。
		(3) 進路実現のために行動する努力をさせる。	①オープンキャンパスまたは職場見学への参加率100%	①オープンキャンパスや職場見学に積極的に参加し、体験したことを進路実現のために生かす。	①第1希望である学校や企業への見学は概ね参加できた。また複数の生徒が2社以上の見学に参加できた。	①オープンキャンパスまたは職場見学への参加率96%	B				複数の学校・企業を見学することで比較ができるので、第1希望だけでなく積極的に参加させていきたい。
	(2) 特色ある農業教育により地域産業の担い手、リーダーとして必要な力を育成する。(農業科)	(1) 地域・企業・大学等との連携活動により、地域理解を深め、社会性や実践力を育てる。	①地域・企業・研究機関等と連携した取組 年間60回以上 ②6次産業化推進活動 3件以上 ③地域・企業と連携した職業体験活動 各学科3日以上	①各学科、専攻での特色を活かした地域貢献活動を進める。 ②地域の農産物等を利用した6次産業化商品の開発に取り組みなど地域の農業・林業の活性化につながる学習を充実させる。 ③インターンシップの実施により、望ましい職業観や勤労観を養い、主体的に進路選択できる力を育成する。	①年間70回の地域や研究機関との連携・協働した取組を実施することができた。 ②ジビエの加工品開発をとおして、獣害対策と利用について学んだ。 ③各専攻の特色を生かした職業体験を計画、実践することができ、地域の課題解決を目指すプロジェクト学習にもつながった。	①地域と連携した取組の推進 年間70回 ②6次産業化推進につながる取り組みを3専攻が実施 ③食農科学科4日・環境資源科3日間実施	B	(2) 評価 (所見) 地域力を活かした連携活動や職業体験を推進し、生徒の主体性・社会性の醸成につながった。	○六次産業化推進につながる取り組みや資格取得の推進等に感謝致します。 ○六次産業化やサプライチェーンの構築が地域経済において重要であるという意識をもって人材を育成していただければありがたいと思っています。	これまで培った地域貢献活動の反省と課題から連携活動を充実・発展させる。先進地研修や農業体験の充実を図り、就農への意識を高める。	
		(2) 学校農業クラブ活動を活発にして三大目標(科学性・社会性・指導性)の育成を図る。	①学校農業クラブ活動への自発的・主体的な参加率 100%	①学校農業クラブ員としての意識を高め、各種行事に積極的に参加させる。	①各種発表出場3部門において、2部門で最優秀となり四国大会へ出場、1部門で全国大会出場する快挙を果たした。	①学校農業クラブでの成果 県予選会入賞3種 四国大会入賞2種	B				地域の課題を把握し、その解決を目指す研究を充実させるとともに、各種発表へとつなげていく。
		(3) 農業の専門的な知識と技術の定着を図る。	①習得した知識技術を生かす体験 生徒全員が体験 ②日本農業技術検定合格率 60%以上	①座学と実習、体験的な学習により専門的な知識と技術を定着させる。 ②計画的な指導で日本農業技術検定の合格率を向上させる。	①専門科目を中心に、授業で活用し将来に活かせる資格取得を推進した。 ②検定では補習計画を立て、全農業教員が指導に当たったが、目標には至らなかった。	①資格取得延べ人数 137名 ②農業技術検定合格率 33.3%	B				引き続き、合格率目標を定め、資格・検定試験の受験を推奨し、生徒の自己実現へとつなげる。
重点課題	重点目標 (全校レベル)	下位組織レベル	評価指標	活動計画	評価			学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策		
					活動計画の実施状況	評価指標の達成度	総合評価				
学校運営の充実	(1) 教職員の活力を増進し、地域との協働により学校運営を充実させ、学校教育力を高める。(副校長、総務課)	(1) 学校運営協議会の意見を学校運営に反映する。	①各委員からの意見の聴取と、学校運営の改善と充実 推進 ②三校連携事業の実施 検討・推進	①学校運営協議会へ参画し、必要に応じてPTA・同窓会等とも連携し、学校運営に生かす。 ②三校連携事業の実施を検討する。	①三好校の現状、本年度の取組について、委員の方々に説明した。 ②3校合同の講演会を実施した。	①地域連携、学校HPの充実等、学校運営に生かした。 ②3校合同の講演会を2回(池田高校卒業生 向井康介さんを迎えて、進路講演会)実施することができた。	B	(1) 評価 (所見) ホームページ更新はほぼ目標回数を達成することができた。教員負担については引き続き注視する必要がある。	○運営協議会のあり方については制度本来の目的に照らして今後も引き続き検討をお願いします。 ○学校ホームページは、過去4ヶ月のアクセスカウンターの増加数を見ると他の農業高校と比してもダントツに多く、更新回数、内容とも適当と判断します。	三好校の特色を生かし、引き続き安全・安心な学校を土台とした学校運営を実践する。	
		(2) 教育活動の広報、中学生への情報発信を強化し、進学希望者を増やす。	①-1 学校 Web ページの情報発信 年間100回以上 ①-2 教育活動等のマスコミ報道 年間10回以上	①学校Webページ、異校種間連携等での情報発信を積極的に行い、専門高校の魅力を広くアピールする。	①教育活動や感染予防の啓発等について学校HPを利用し、リアルタイムに発信することができた。	①-1HPの更新回数 79回 ※令和6年1月末現在 ①-2 マスコミの報道回数 10回 ※令和6年1月末現在	B			保護者、同窓生、中学生、地域等の学校理解を推進するため、次年度以降も学校HP、メディアを活用し、生徒の活動を発信する。	
		(3) 働き方改革を進め、教職員の活力を増進する。	①-1 教職員数の確保 学校図書館司書、進路事務等を確保することにより教員の負担を軽減する ①-2 有給休暇5日以上取得 100% 夏休5日取得 100%	①教職員の負担を軽減し、ワークライフバランス、休暇取得を奨励する。	①-1 年度当初より学校図書館司書、進路事務者を確保することができた。 ①-2 休暇取得状況をシステムにより確認することで、有給休暇・夏休の取得を定期的に推奨した。	①年度内に学校図書館司書及び進路事務の雇用で教員の負担軽減につなげることができた。 ①-2 有給休暇5日以上の取得率 88.9%であった。 夏休の1人当たりの平均取得日数は4.7日であった。	B			出退勤システムを活用し、職員の勤務実態を不断に把握するなど、効率的な業務執行体制の確保に努める。	